

# 関西大学の事例報告

関西大学 学事局 教育開発支援室・教学IR室  
川瀬 友太



## 1 Introduction

## 2 教学IRの概要

## 3 教学IRを活用したアクション

## 4 教育のグランドデザイン

## 5 まとめにかえて



# 関西大学の概要

創立	1886（明治19）年、大阪西区京町堀の願宗寺において、大阪法律学校を開校。法学者ボアソナードの薫陶を受けた司法官の井上操、小倉久、堀田正忠らが吉田一士とともに創立
学生数	学部28,872名、大学院1,557名、専門職206名
教職員数	専任教員計742名、専任職員484名
入学志願者数	84,558名（2018年2月実施実績、別に3月入試実施、一般入試の計、推薦等は含まず）
学部数等	13学部、15研究科（大学院・専門職大学院）、留学生別科 第一中・高等学校、北陽中・高等学校、初・中・高等部、幼稚園

キャンパス名	設置されている教育組織
千里山	法・文・経済・商・社会・政策創造・外国語・システム理工・環境都市工・化学生命工学部および大学院、関西大学第一高等学校・中学校・幼稚園
高槻	総合情報学部および大学院総合情報学研究科
高槻ミューズ	社会安全学部および大学院社会安全研究科、関西大学高等部・中等部・初等部
堺	人間健康学部および大学院人間健康研究科
北陽	関西大学北陽高等学校・中学校
梅田	梅田キャンパスオフィス、キャリアセンター梅田オフィス
南千里国際プラザ	留学生別科（日本語・日本文化教育プログラム進学コース）

## 1 社会貢献：まちFUNまつりin関西大学

- 地域住民たちと「大人の文化祭」
- 4年目のイベントで、約7,000人が来学
- 地域×企業×学生×教職員のコラボイベント



## 2 スポーツ

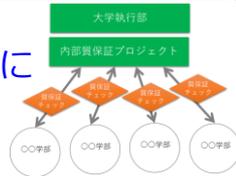
- ・アイススケート
- ・サッカー
- ・陸上競技部（駅伝パート）



## 3 第3期機関別認証評価

- ・ 10月実地調査
- ・ ヒアリング対象「教学IRプロジェクト」
- ・ 教学IRによるプログラムレビュー

A エビデンスに基づく改善



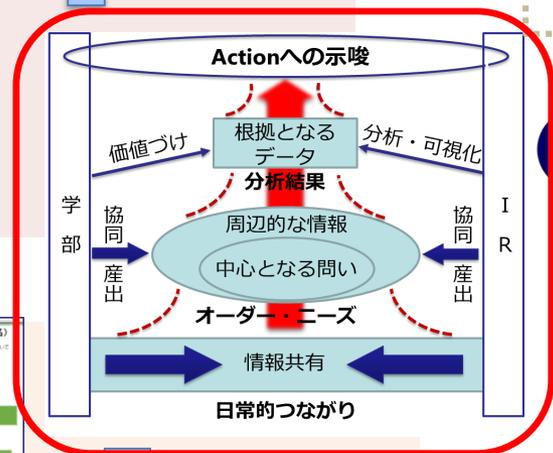
P 理念・達成目標の共有化



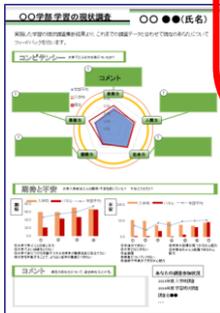
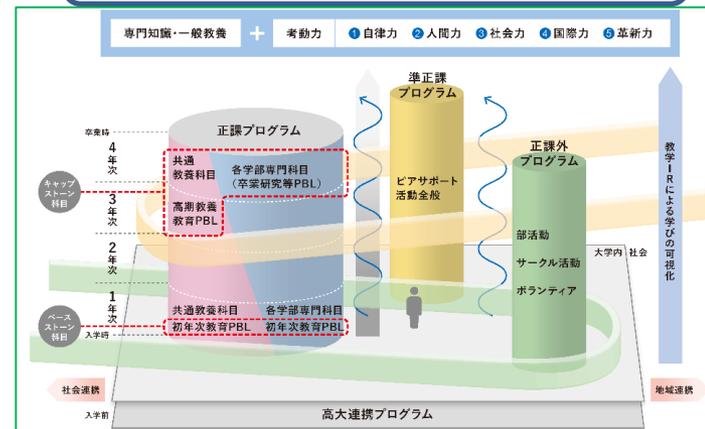
C1 アセスメント・ポリシー

- 逆向き設計による評価プランの検討。
- 部局による質保証チェックシートの作成

D 継続的なアクティブラーニング  
戦略的な教育課程



C データを基盤とする学びの実態調査



1 Introduction

2 教学IRの概要

3 教学IRを活用したアクション

4 教育のグランドデザイン

5 まとめにかえて



教職協働・学部横断型プロジェクトとして、2014年度に教育推進部長のもとに教学IRプロジェクトを置く



教育推進部長

## ■教学IRプロジェクト構成員 計24名

学長補佐（1名）他、入試・教務・キャリア・各学部等の教職員が参画

## ■ワーキンググループ 計32名

### 1 全学学生調査ワーキンググループ

入学時調査・卒業時調査など、間接評価に関する調査設計・実施

### 2 分析ワーキンググループ

直接評価・間接評価データの分析（関係部局からの依頼対応含む）

### 3 広報ワーキンググループ

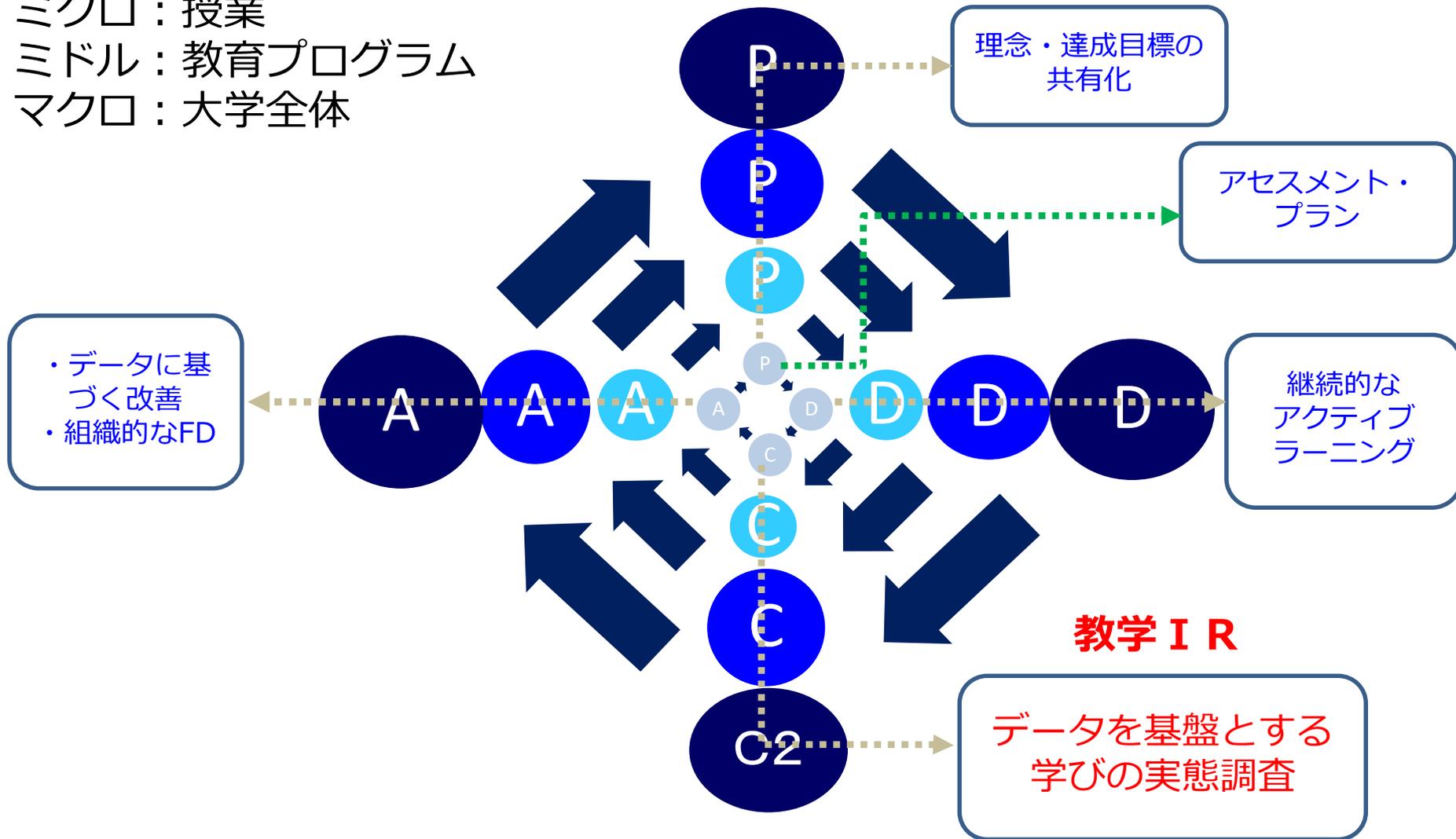
分析結果に関する広報物作成

データの収集に終始するだけでなく、その**結果を教育・学習改善に活かす**ことを視野に入れた活動を行うことで、大学の**内部質保証システムの強化**につなげることを目的とする



# 内部質保証システムの重層化

ミクロ：授業  
ミドル：教育プログラム  
マクロ：大学全体

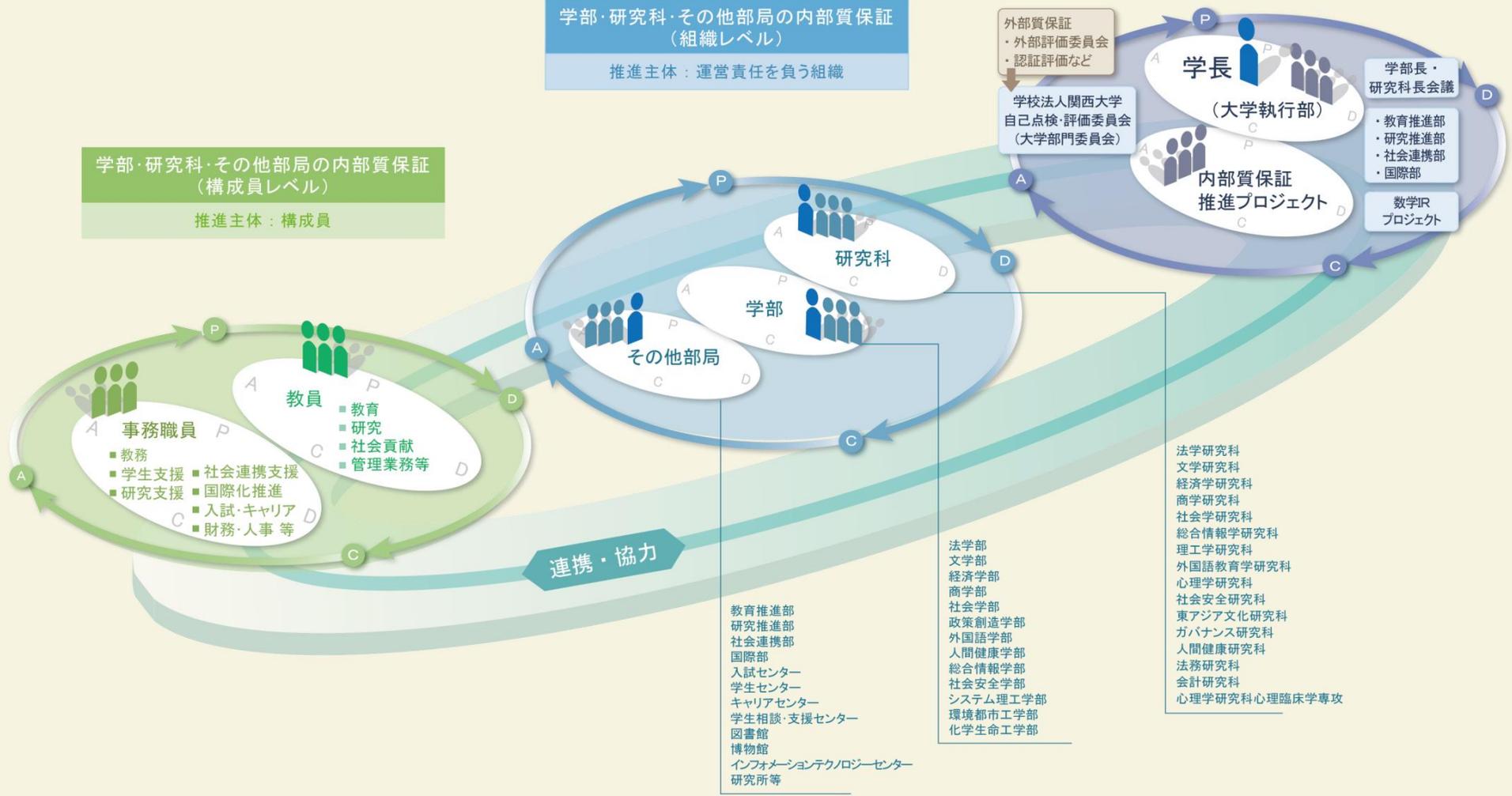


# 内部質保証の責任・役割（イメージ）

全学的な内部質保証  
(全学レベル)  
推進主体：内部質保証推進プロジェクト

学部・研究科・その他部局の内部質保証  
(組織レベル)  
推進主体：運営責任を負う組織

学部・研究科・その他部局の内部質保証  
(構成員レベル)  
推進主体：構成員

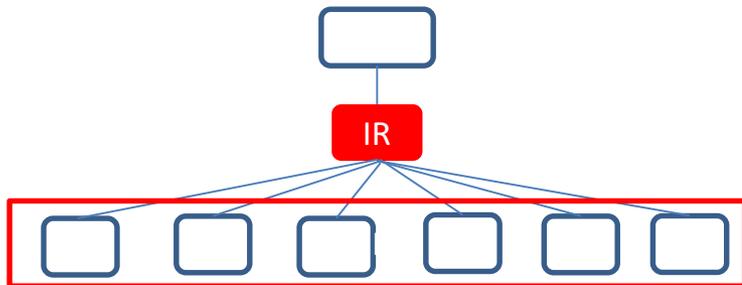


# 本学の教学IRの特徴

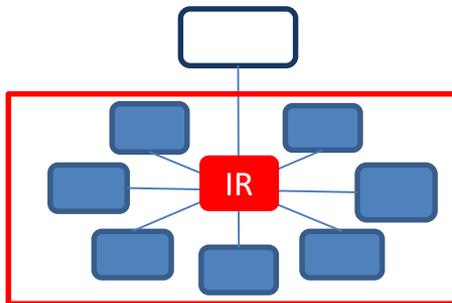


質保証の強化を！

トップダウン（マネジメント）型  
主に認証評価や補助金に対応



ボトムアップ型  
主に教育・学習改善に対応



学部のニーズに合わせて教学IR



## 教学IRの特徴

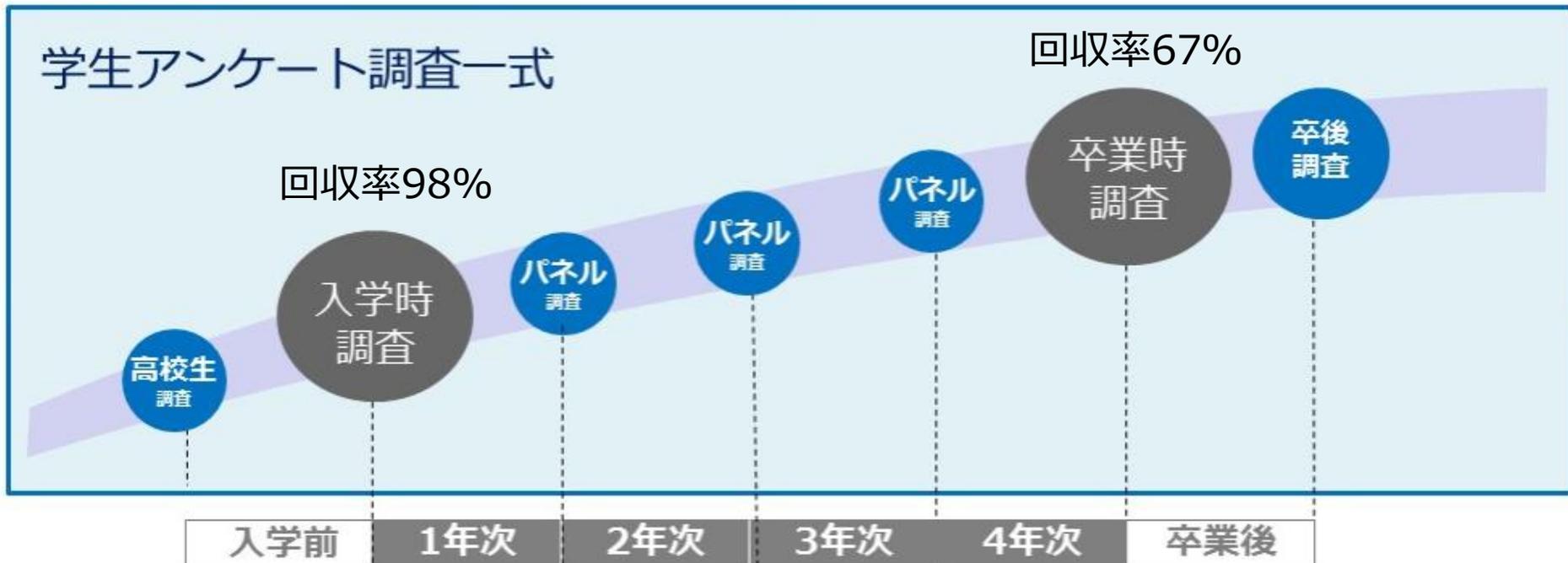
- 1 大学全体レベルの評価機能
- 2 学部・研究科レベルの評価機能
- 3 学生の「学ぶ」を支援する能動型
- 4 「考動力」を一貫して評価
- 5 教職協働型



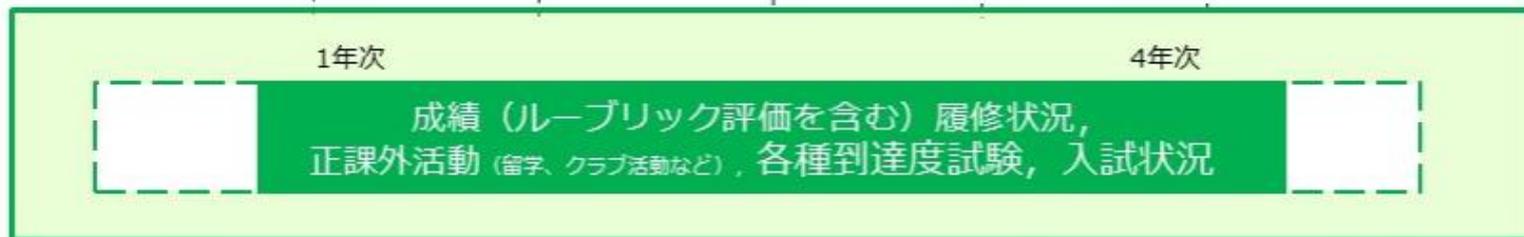
KANSAI UNIVERSITY

# 教学IRの調査設計

## ● 間接評価

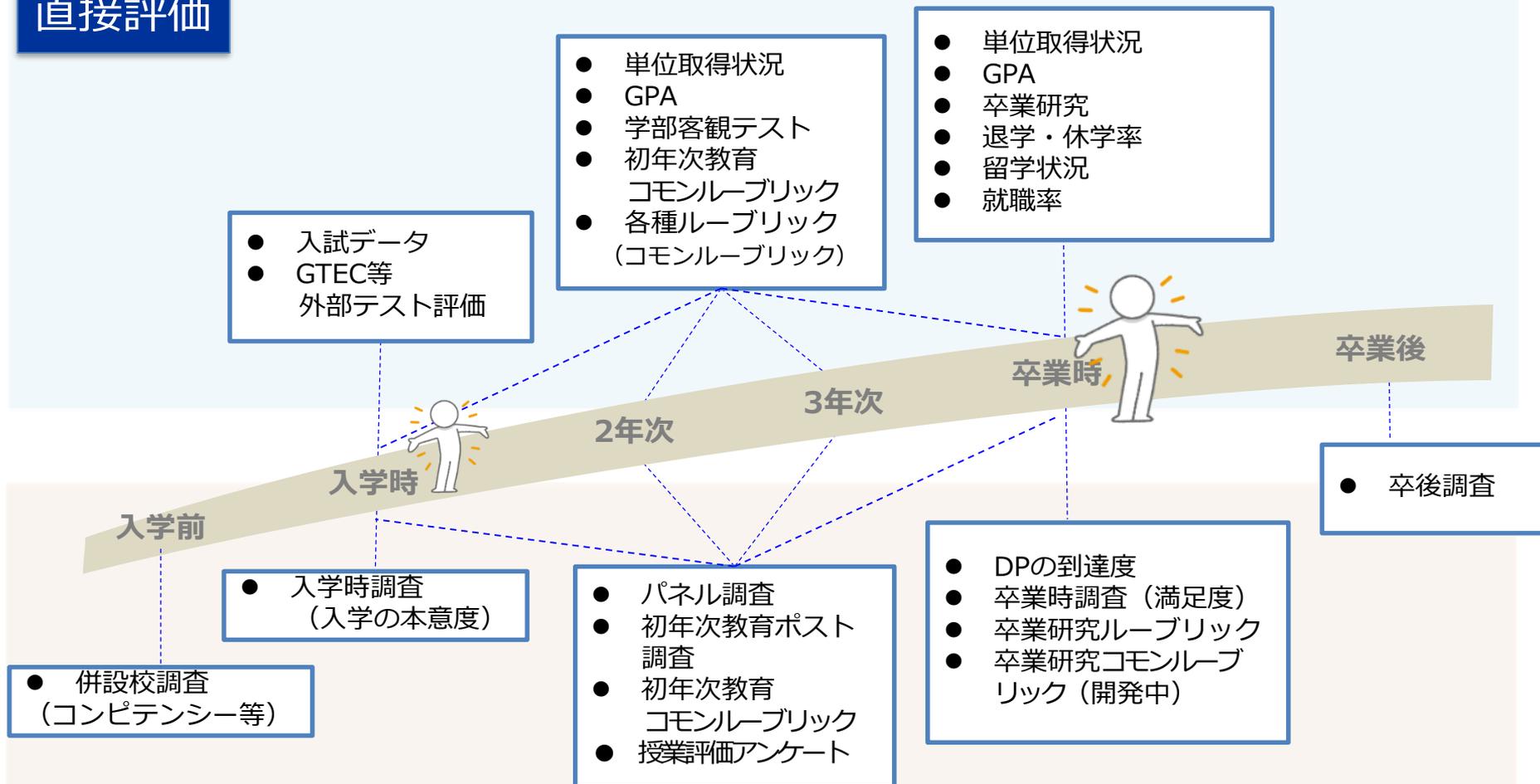


## ● 直接評価



# 学生の学びと成長のアセスメント・プラン

## 直接評価



## 間接評価



KANSAI UNIVERSITY

1 自律力

- ・ 思考判断力
- ・ 生涯学習力

2 人間力

- ・ リーダーシップ
- ・ 傾聴と発信

3 社会力

- ・ 社会の規範と課題
- ・ 社会に貢献

4 国際力

- ・ 英語の習得と活用
- ・ 異文化理解

5 革新力

- ・ 価値の創出
- ・ 生涯学習力



# ニーズに合わせた教学IR

1 速報値の報告

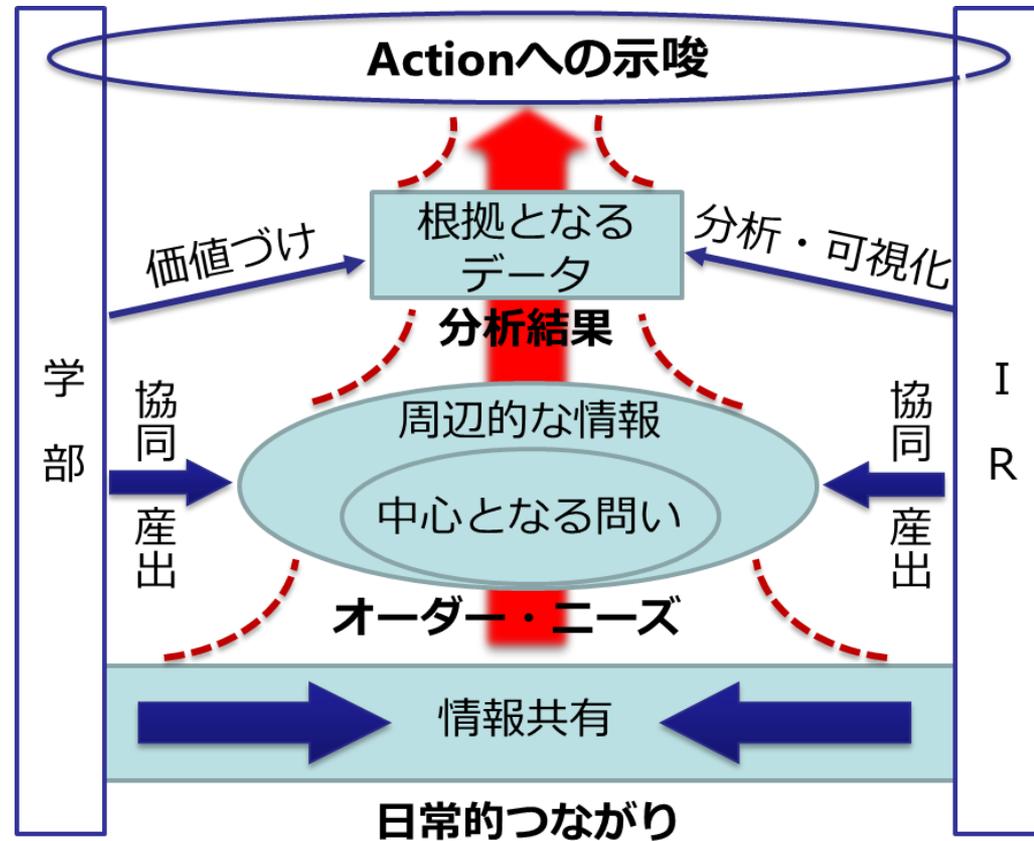
2 ディスカッション

3 ニーズ分析

4 再報告

5 意思決定の支援

6 調査設計



ニーズベース型IRのイメージ



KANSAI UNIVERSITY

1 Introduction

2 教学IRの概要

3 教学IRを活用したアクション

- 各学部へのフィードバック
- A学部の事例
- 大学執行部からの依頼
- 学生個人へのフィードバック

4 教育のグランドデザイン

5 まとめにかえて



# 学部への速報値報告・要望のヒアリング

## 2018年度 『入学時調査』 速報値資料集

全学版

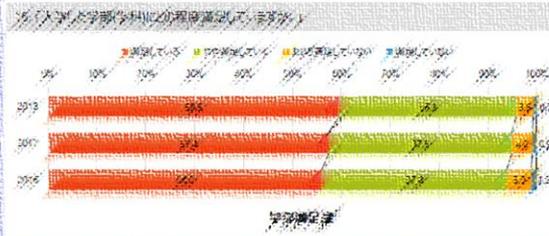
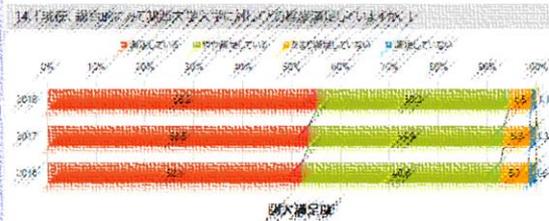
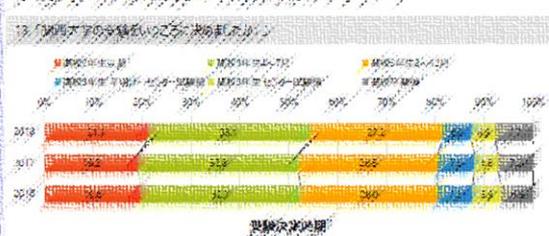
調査実施日：2018年4月1日、3日  
調査回答者：2018年度入学生（6676名）

### 目次

- 0. 調査概要と回収率… p.1
- 1. 回収率… p.2
- 2. 居住形態… p.2
- 3. 大学への進学理由… p.2
- 4. 参考媒体… p.3~4
- 5. 関大メディアカナルマー… p.5
- 6. KU-ORCAS… p.5
- 7. SNS媒体の利用… p.5
- 8. 関大選択での重視点… p.6~7
- 9. 関大志望度… p.8
- 10. 学部志望度… p.8
- 11. 併願大学… p.
- 12. 進学時の参考他者… p.
- 13. 受験決定時期… p.
- 14. 関大満足度… p.
- 15. 学部満足度… p.
- 16. 大学に対する気持ち… p.
- 17. 大学に対する悩み… p.
- 18. 大学でやりたいもの… p.
- 19. 高校での授業外学習… p.
- 20. 高校での課外活動… p.
- 21. 高校時の学習時間… p.

作成：教学IRプロジェクト  
作成日：2018年6月1日

### 受験決定時期への満足度について



- ・「入学時調査」「卒業時調査」の速報版を各学部へ報告
- ・要望等をヒアリング



KANSAI UNIVERSITY

Copyright (C) 2013 Kansai University. All Rights Reserved.

# 経年的に満足度を追跡（全学版と各学部版）

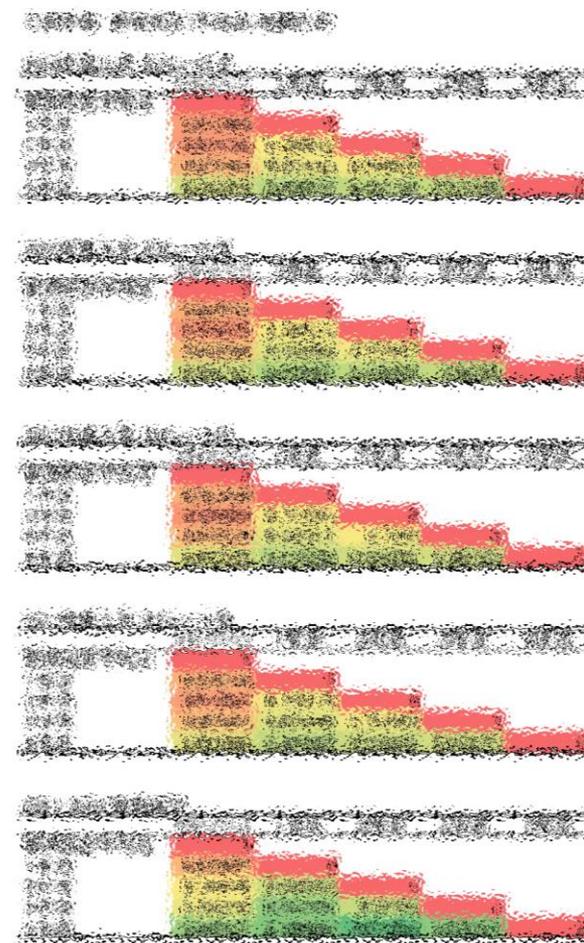
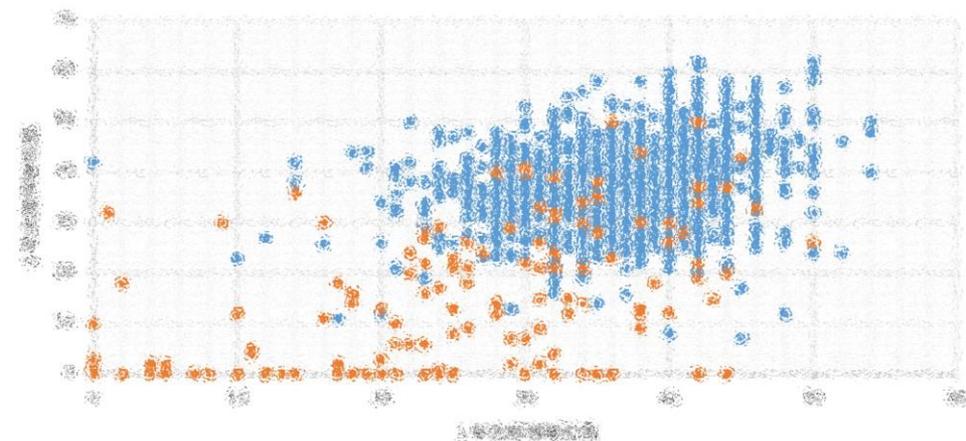
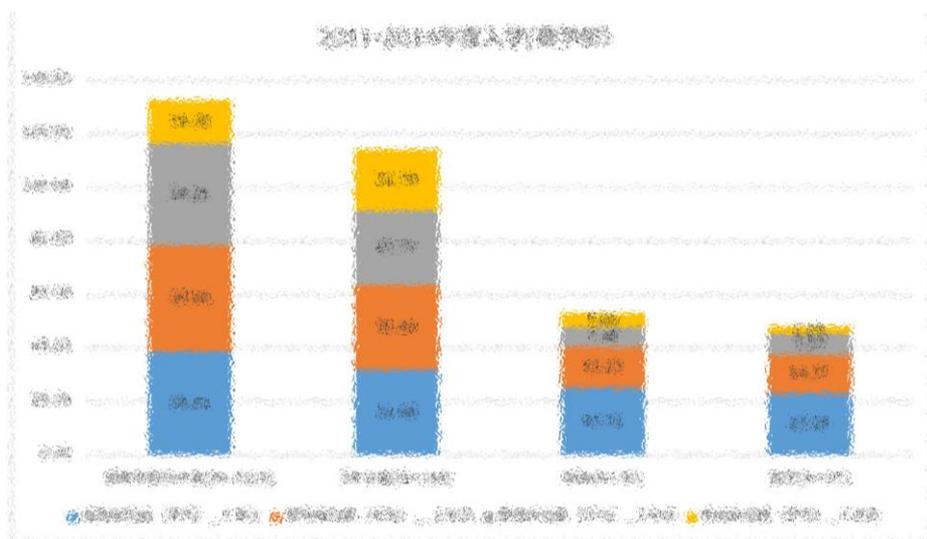
		学部（学科・専攻）満足度			
		満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない
関大満足度	満足している	本意入学者		ミスマッチ	
	やや満足している	準本意入学者			
	あまり満足していない	不本意入学者		不満足群	
	満足していない				

- 「**本意入学者**」 : “**関大**にも**学部**にも満足している”
- 「**準本意入学者**」 : “**関大**にも**学部**にもやや満足している”
- 「**不本意入学者**」 : “**学部**には満足しているが、**関大**には満足していない”
- 「**ミスマッチ**」 : “**関大**には満足しているが、**学部**には満足していない”
- 「**不満足群**」 : “**関大**にも**学部**にも満足していない”



# 要望に応じた分析

- 修得科目の平均点（卒業時）と各学年の平均点
- 1年次と2年次修得単位数の関係
- 修業年限内卒業者とそれ以外の者との比較



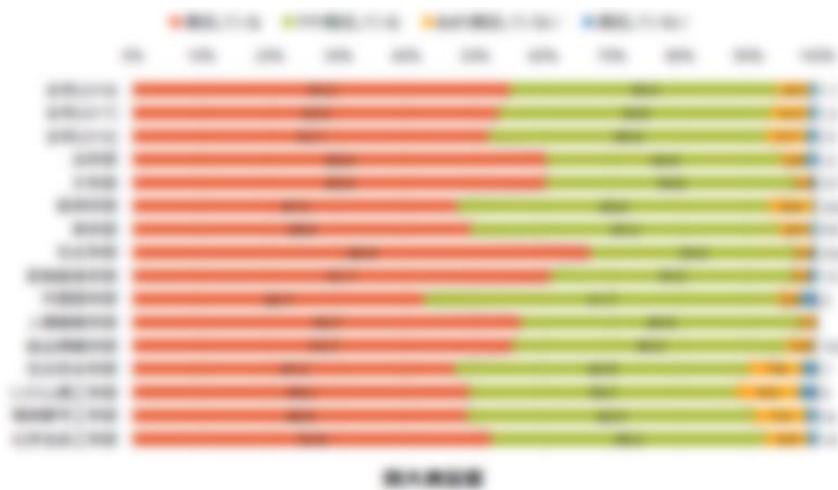
## Check

- **学生がつまづく科目は何か？**

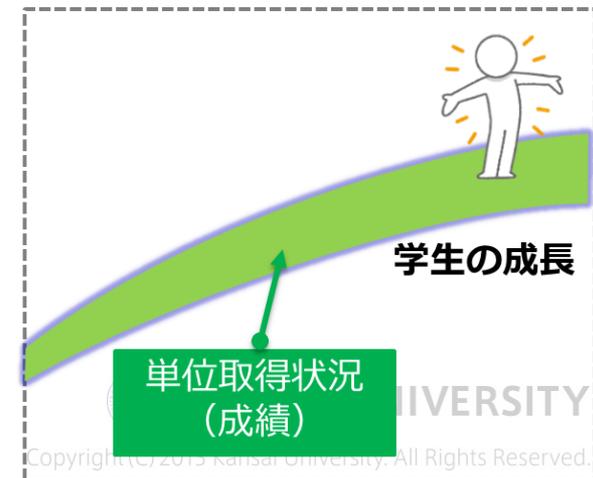
卒業生が出ている2011年、2012年入学生（1,435名）  
4年で卒業のキーとなる科目を探索

- **専門教育の意欲を向上するには？**

入学時調査における満足度



過去の状況のCheck



## Plan

- ・ A学部「専門科目X」：1年春必修、25名×30クラス
- ・ 教育開発支援センター（CTL）の協力
- ・ カリキュラム改善：ティーチングガイドの作成、反転授業、ピアサポート、DPとあわせた到達目標

### 第1部：アカデミックスキルと大学の基礎情報(クラス共通)

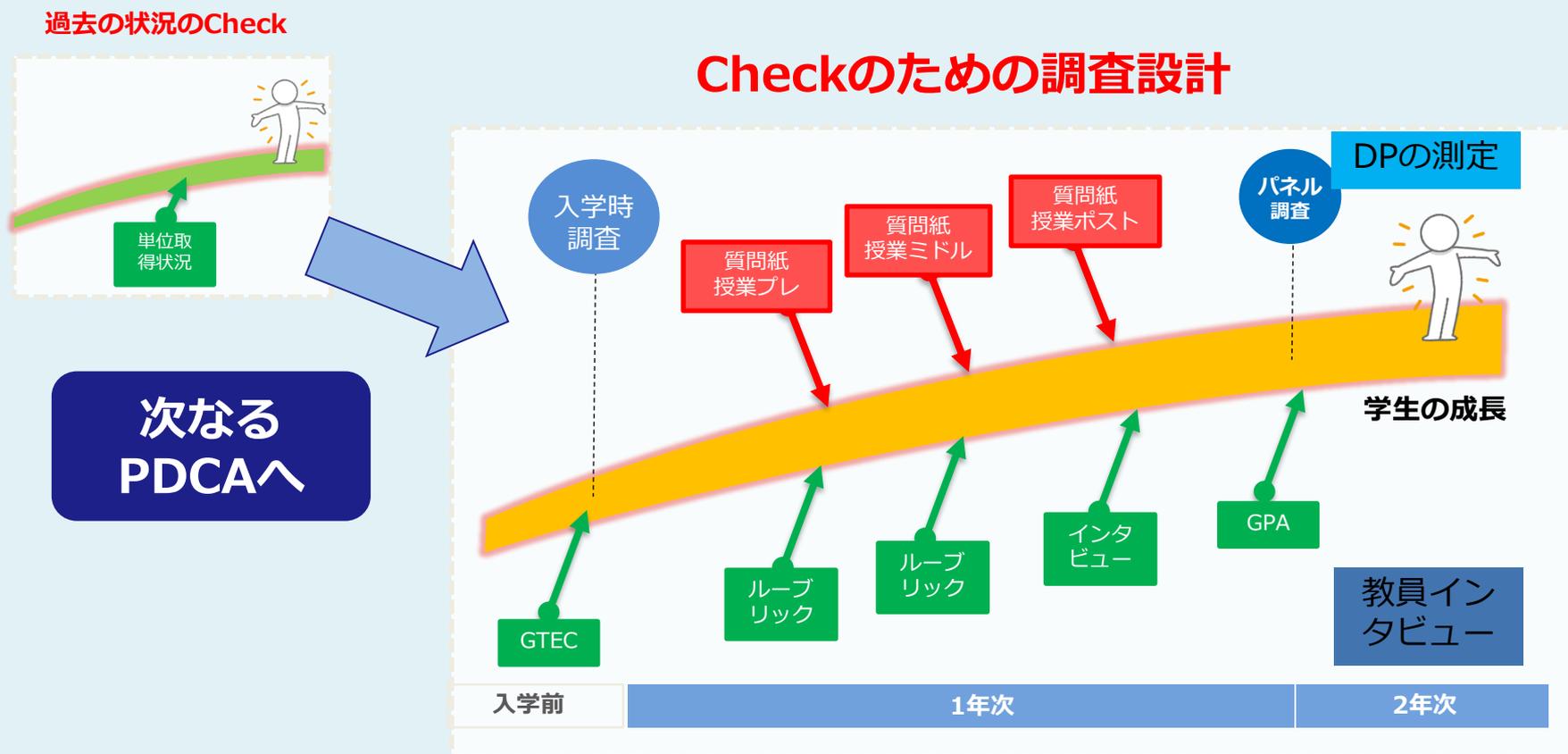
講義内容	
第1回	ガイダンス・自己紹介(アイスブレイク)
第2回	ノートテイキング
第3回	学部のしくみ (大学の歴史・学部カリキュラム・学部学会など)
第4回	図書館ガイダンス・施設紹介など
第5回	レポート作成①
第6回	レポート作成②

※円滑な初年次教育への移行を狙う

### 第2部：プロジェクト学習

講義内容	
第7回	プレゼンテーションに関する基礎知識を学ぶ・グループ決定
第8回	グループ内で課題を(プロジェクト)設定し、発表の準備
第9回	グループ内で調査結果を共有し、発表の準備
第10回	中間発表(1)
第11回	中間発表(2)
第12回	フィードバック、最終発表に向けての準備
第13回	合同成果発表会(1)
第14回	合同成果発表会(2)
第15回	フィードバック&総括・振り返り

## Check 1 調査設計と尺度の作成



## Check 1 調査設計と尺度の作成

2017年度

1. 社会の出来事や学問への関心をもつ
2. 学部での学習に必要な読み・書き・プレゼンのスキルを身につける
3. 学習に必要な種々の情報の入手や文献検索等のスキルを身につける
4. 大学の歴史（建学の理念）や制度、施設について、カリキュラムを始めとする学部の様々なしくみについて理解する

社会、学問への関心（到達目標 1）

- ・【社会への関心】
- ・【学問への関心：専門の学問知識】
- ・【学問への関心：専門を学ぶ意欲】

スタディスキル（到達目標 2, 3）

- ・【読解力】
- ・【ノートテイク力】
- ・【情報収集力】
- ・【プレゼンテーション力】
- ・【レポート作成力】

関大、A学部に関する知識（到達目標 4）

- ・【関大に関する知識】
- ・【学部に関する知識】

その他、授業での学習者の考え・行動を測定する項目を含む

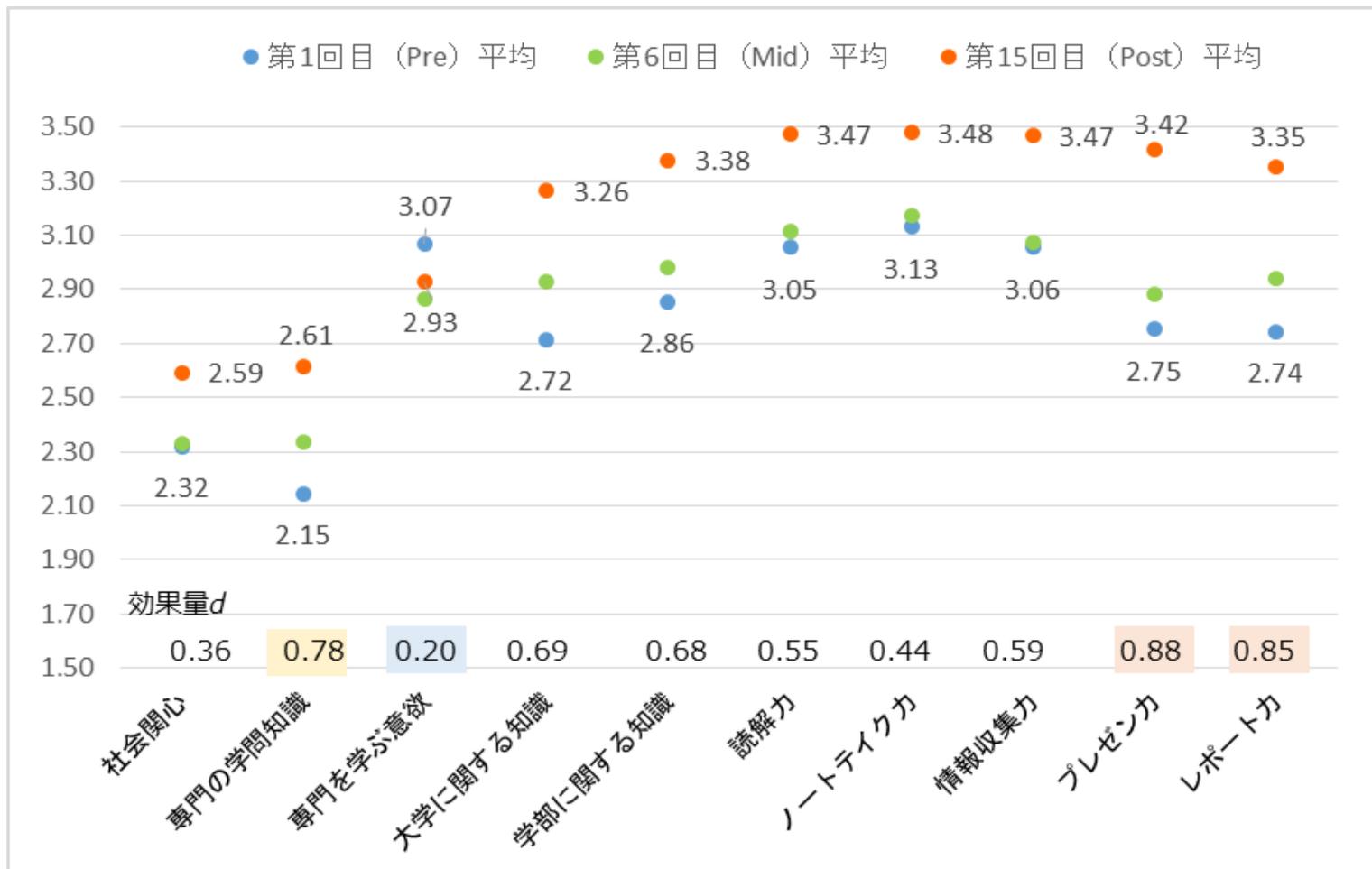
質問紙の尺度



KANSAI UNIVERSITY

## Do → Check 2 担任者へフィードバック

特に「専門の学問知識」「プレゼンカ」「レポートカ」の大きな上昇、  
「専門を学ぶ意欲」は低下。とりわけミドループストの上昇



## Do → Check 2 担任者へフィードバック

### 〇〇授業 授業担当者フィードバック

注：3回とも回答した学生を対象。dは1回目と15回目との効果量を示し、効果の大ききの目安として小、.25、中、.50、大、.80です。

授業担当者

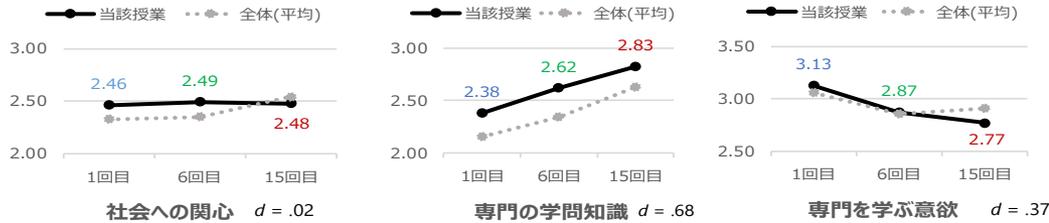
△△ △△

class code

回答人数

17~21名  
(尺度ごとに異なる)

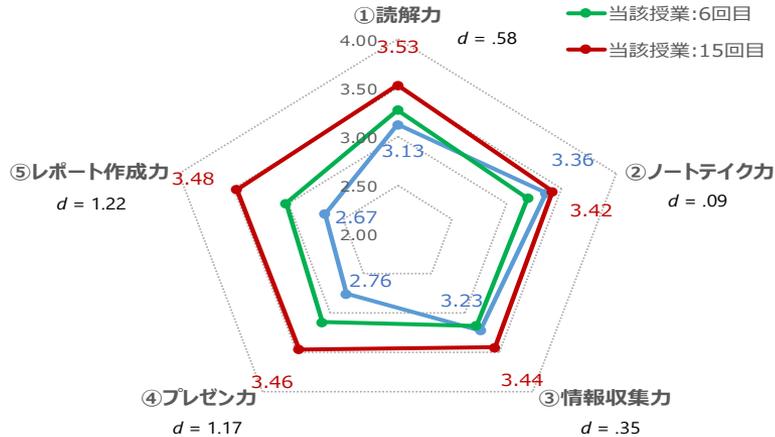
### 社会、学問への関心



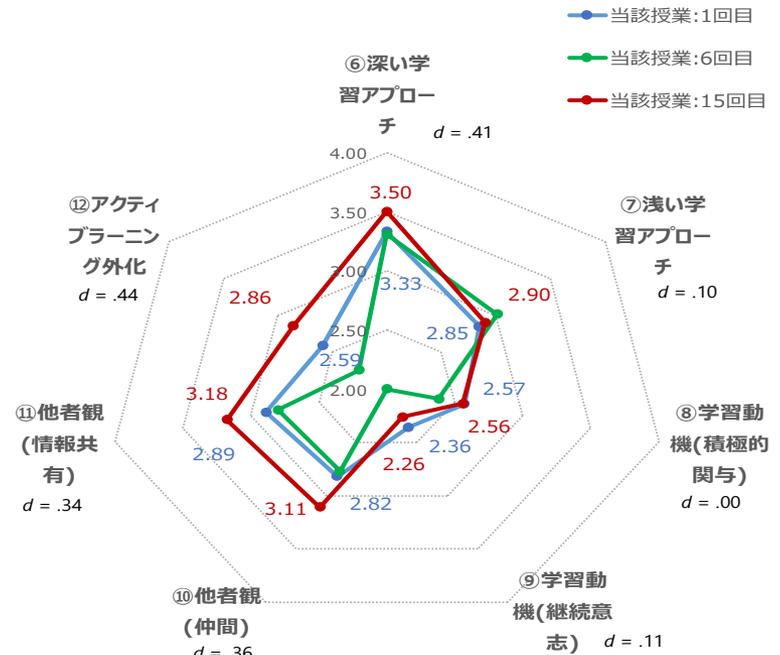
### 関大、学部に関する知識



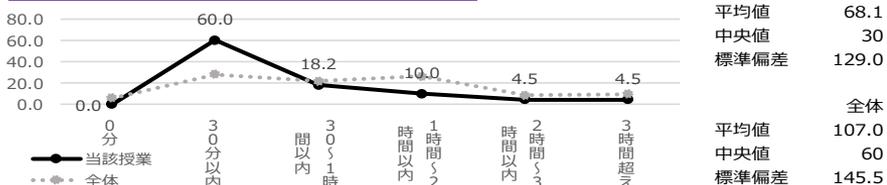
### スタディスキル



### 学習アプローチ、学習動機、他者観、外化



### 授業外学習時間(分/週)



注：⑥⑦は5段階評価、他は4段階評価

# 本学の現状分析

## 関関同立 収容定員・在籍学生数・充足率比較（2017年度）

表1-①(前期)全学別別



表1-②(前期)全学別別



表1-③(後期)理工系学部別



表1-④(後期)理工系学部別



# 本学の現状分析

## 大学院年齢別入学者数

日本私立大学連盟「平成29年度学生・教職員数等調査 集計結果」より加工

	～21		22 歳		23 歳		24 歳		25～29 歳		30～39 歳		40～49 歳		50～60 歳		計		社会人		留学生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	50.3%	49.7%	70.0%	30.0%	68.9%	31.1%	61.4%	38.6%	57.8%	42.2%	65.1%	34.9%	58.7%	41.3%	54.8%	45.2%	65.4%	34.6%	61.5%	38.5%	45.5%	54.5%
	59.6%	40.4%	70.2%	29.8%	69.5%	30.5%	59.4%	40.6%	56.3%	43.7%	65.1%	34.9%	58.6%	41.4%	53.5%	46.5%	65.4%	34.6%	61.6%	38.4%	44.6%	55.4%
【前期】																						
	44.7%	55.3%	70.3%	29.7%	68.8%	31.2%	59.2%	40.8%	52.7%	47.3%	58.3%	41.7%	52.4%	47.6%	44.5%	55.5%	64.9%	35.1%	54.4%	45.6%	44.9%	55.1%
	59.4%	40.6%	70.4%	29.6%	69.3%	30.7%	57.2%	42.8%	51.7%	48.3%	59.7%	40.3%	51.7%	48.3%	44.3%	55.7%	65.1%	34.9%	56.4%	43.6%	43.7%	56.3%
	100.0%	0.0%	79.7%	20.3%	69.3%	30.7%	61.5%	38.5%	47.2%	52.8%	25.0%	75.0%	41.7%	58.3%	66.7%	33.3%	68.8%	31.2%	45.5%	54.5%	33.3%	66.7%
	75.0%	25.0%	68.9%	31.1%	79.3%	20.7%	60.9%	39.1%	60.0%	40.0%	77.8%	22.2%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%	68.4%	31.6%	56.0%	44.0%	33.3%	66.7%
	76.5%	23.5%	73.0%	27.0%	77.5%	22.5%	68.3%	31.7%	64.3%	35.7%	73.3%	26.7%	44.4%	55.6%	70.0%	30.0%	72.6%	27.4%	47.8%	52.2%	60.2%	39.8%
	36.4%	63.6%	76.2%	23.8%	75.3%	24.7%	66.4%	33.6%	57.3%	42.7%	43.9%	56.1%	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%	71.1%	28.9%	18.2%	81.8%	39.6%	60.4%
	100.0%	0.0%	72.0%	28.0%	76.1%	23.9%	60.9%	39.1%	53.1%	46.9%	67.4%	32.6%	83.6%	16.4%	71.4%	28.6%	70.3%	29.7%	65.1%	34.9%	40.9%	59.1%
	-	-	79.9%	20.1%	79.3%	20.7%	48.3%	51.7%	51.6%	48.4%	100.0%	0.0%	-	-	-	-	75.3%	24.7%	83.3%	16.7%	30.9%	69.1%
	0.0%	100.0%	77.9%	22.1%	67.5%	32.5%	64.4%	35.6%	52.7%	47.3%	66.7%	33.3%	51.1%	48.9%	42.3%	57.7%	68.0%	32.0%	60.2%	39.8%	38.8%	61.2%
	75.0%	25.0%	81.0%	19.0%	72.0%	28.0%	60.3%	39.7%	49.2%	50.8%	66.7%	33.3%	63.6%	36.4%	60.0%	40.0%	73.9%	26.1%	76.4%	23.6%	39.4%	60.6%
	-	-	56.5%	43.5%	51.3%	48.7%	51.4%	48.6%	41.9%	58.1%	53.7%	46.3%	69.2%	30.8%	48.0%	52.0%	53.3%	46.7%	64.2%	35.8%	36.2%	63.8%
	62.7%	37.3%	70.0%	30.0%	69.5%	30.5%	57.9%	42.1%	55.0%	45.0%	59.6%	40.4%	53.1%	46.9%	53.3%	46.7%	66.3%	33.7%	46.6%	53.4%	48.2%	51.8%

【全体】  
男女比の分析

 : 高い値を示す  : 低い値を示す

【社会人】

男 > 女 : ●●大学、●●大学、●●大学  
 男 < 女 : ●●大学、●●大学

【留学生】

男 > 女 : ●●大学、●●大学、●●大学  
 男 < 女 : ●●大学

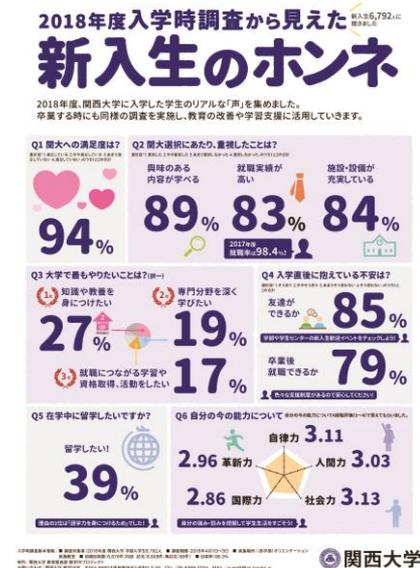
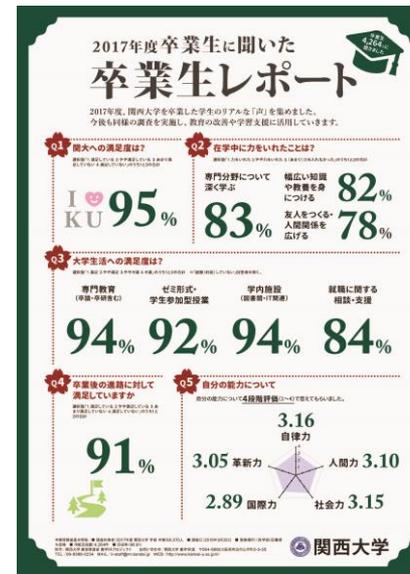


KANSAI UNIVERSITY

# 学生個人に向けたフィードバック

## 現 状

- ・ 4年間の教学IRプロジェクトを通じて、教職員にはデータをフィードバックしてきた
- ・ 教育の主役であり調査主体である学生個人にはフィードバックできていなかった



## 目的・期待

- ・ 学生自らの現状の立ち位置（強み・弱み）に関するメタ認知を刺激し、コメント等において履修に関しての行動変容を促す
- ・ コメントは全学プログラムや正課外活動など共通項目、学部オリジナルの内容などを示し、対面の学修支援につなげる

→ 2017年度フィードバックシステムの開発・運用



KANSAI UNIVERSITY

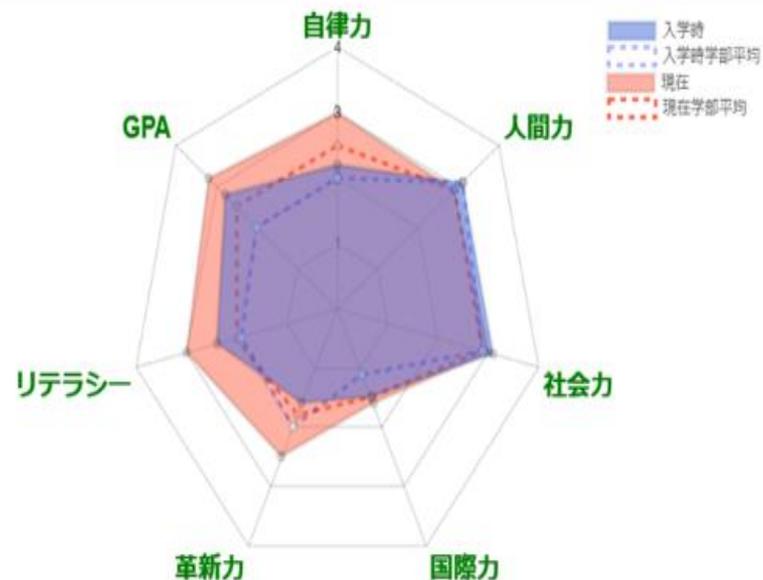
# 概要

- ・「入学時調査」「パネル調査」の実施結果を閲覧できるシステム
- ・「考動カコンピテンシー」「情報リテラシー」「GPA」の7項目をレーダーチャートで示す
- ・所属学部との平均値と比較可能
- ・ワンポイントアドバイスを表示
- ・2018年より試行的運用を開始(2019年度より本格運用)

## 〇〇学部 学習の現状調査 関大一郎

実施した学習の現状調査集計結果より、これまでの調査データと合わせて現在のあなたについてフィードバックを行います。

### コンピテンシー 大学でどんな力が身についたか？



自律力・・・自律力についての説明  
人間力・・・人間力についての説明  
社会力・・・社会力についての説明  
国際力・・・国際力についての説明  
革新力・・・革新力についての説明  
リテラシー・・・リテラシーについての説明  
GPA・・・GPAについての説明

あなた自身の自己評価の結果が表示されています。  
おおよその目安として、  
1：まったく身につけていない  
2：あまり身につけていない  
3：やや身につけている  
4：とてもよく身につけている  
と自己評価しています。



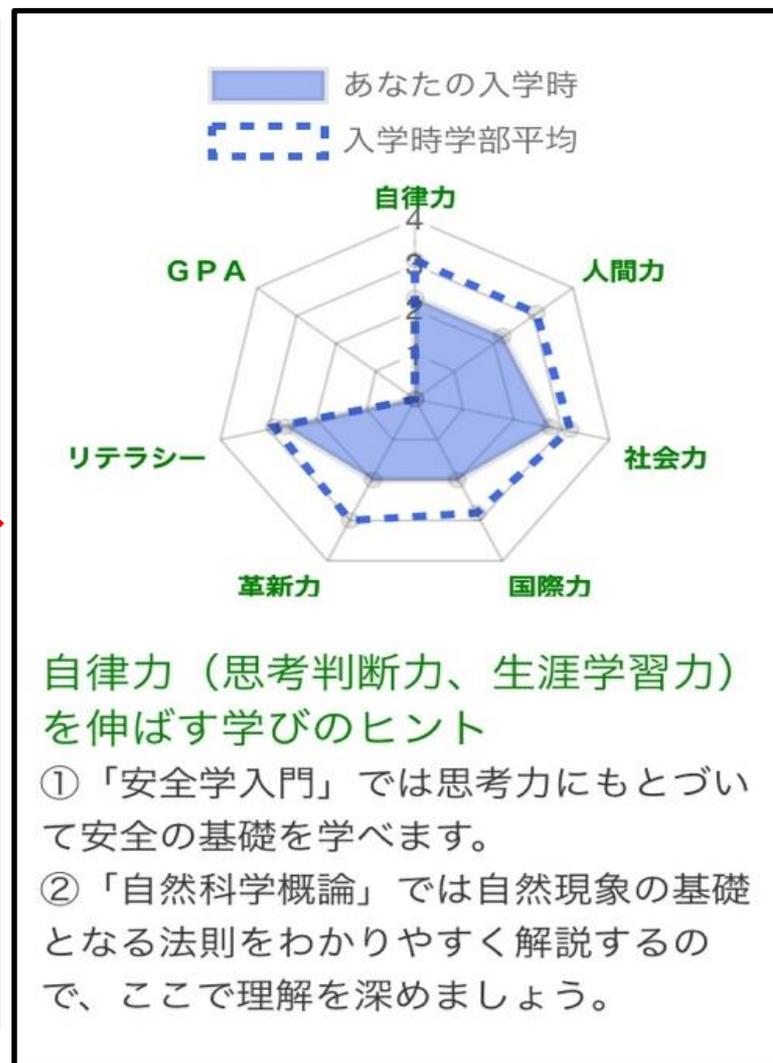
## 成績照会

学籍番号	
氏名	

+ 卒業要件

+ 単位修得・科目履修状況

+ 学生調査等結果



## 課題

- ・活用事例の把握（パネル調査における学生の行動変容を把握）
- ・全学部を導入して、履修等の学びを支援するツールとする
- ・見やすい、使いやすい、職員アドバイスにも使えるものに

## 展望

- ・予測モデルを構築し“フィードフォワード型”を実現する



- 1 Introduction
- 2 内部質保証と教学IR
- 3 教学IRを活用したアクション
- 4 教育のグランドデザイン
- 5 まとめにかえて



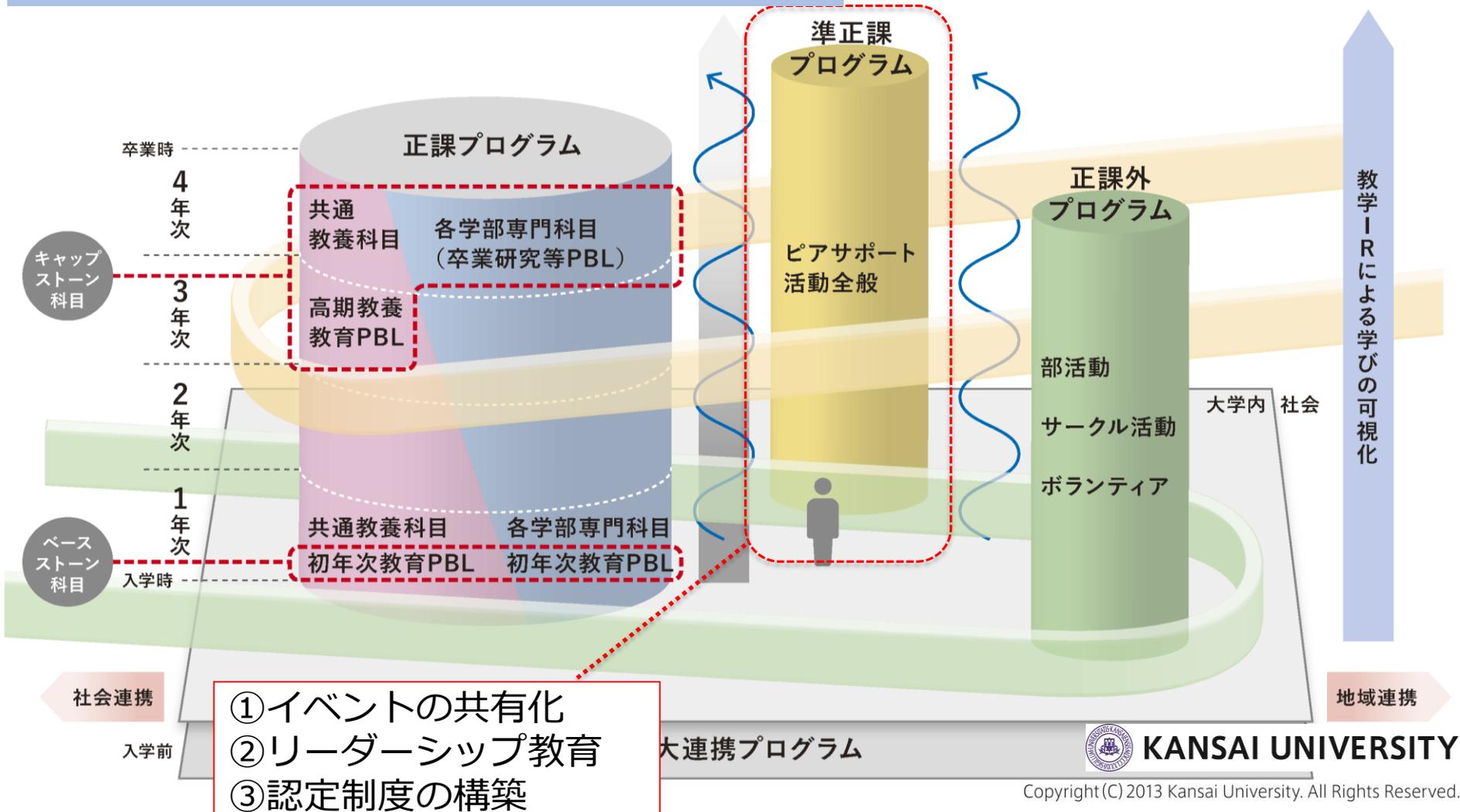
# 学生の相互補助活動を取りまとめるプロジェクト

専門知識・一般教養

考動力

- ① 自律力 ② 人間力 ③ 社会力 ④ 国際力 ⑤ 革新力

学内40種 約1,500名の学生



# 部署横断・全学的取り組みとして始動

## ○関係部署

- ・ 学生サービス事務局  
(学生生活G・奨学支援G・ボランティアG・スポーツ振興G)
- ・ キャリアセンター事務局 (キャリアセンターG・キャリアセンター理工系G)
- ・ 図書館事務室
- ・ 学術情報事務局 (IT担当) 情報推進G
- ・ 入試事務局 (入試広報G)
- ・ 学長室 (国際担当) (国際教育G・国際プラザG)
- ・ 堺キャンパス事務室
- ・ 高槻事務局 (高槻/高槻)
- ・ 学事局  
(学生相談・支援センター・教務事務G・授業支援G)

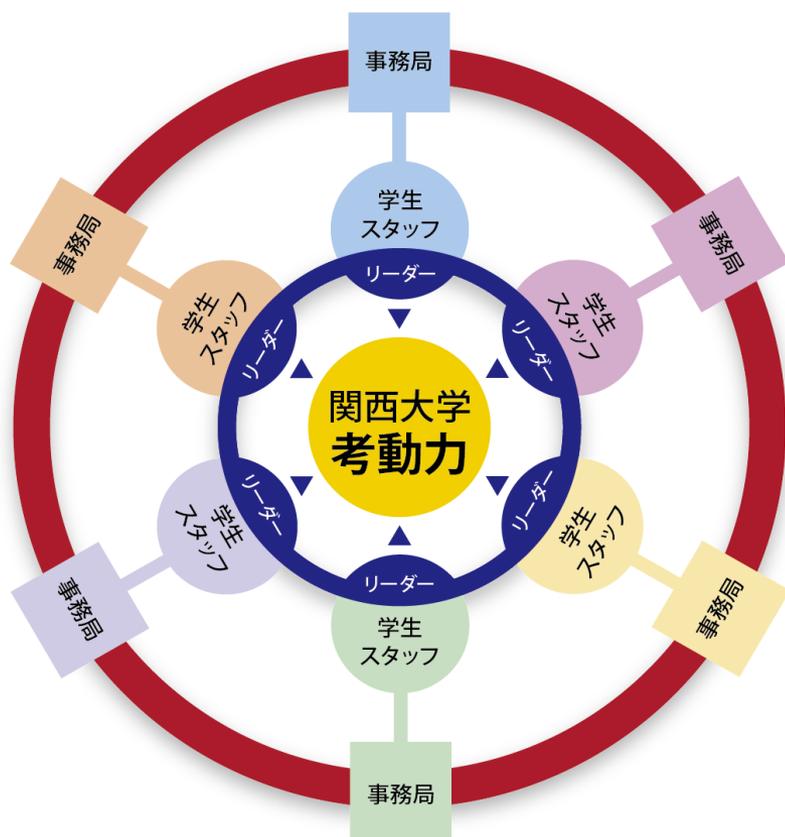


# 学生の相互補助活動を取りまとめるプロジェクト

関西大学DP：

- 1 「知識を総合的に活用する力」
- 2 「周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献する力」
- 3 「自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組む力」

考動力育成プログラムのプラットフォーム(案)



**KUサミット(仮)：**

## 1 学びのコミュニティの活性化

考動力を育成するため、学内スタッフ同士が連携し、共通のテーマに取り組むプラットフォームの形成を促進

## 2 知の集積と活用現場

互いの知を集積し、学生スタッフ同士の連携により、革新的な教育プログラムを生み出す

## 3 資格付与による質保証

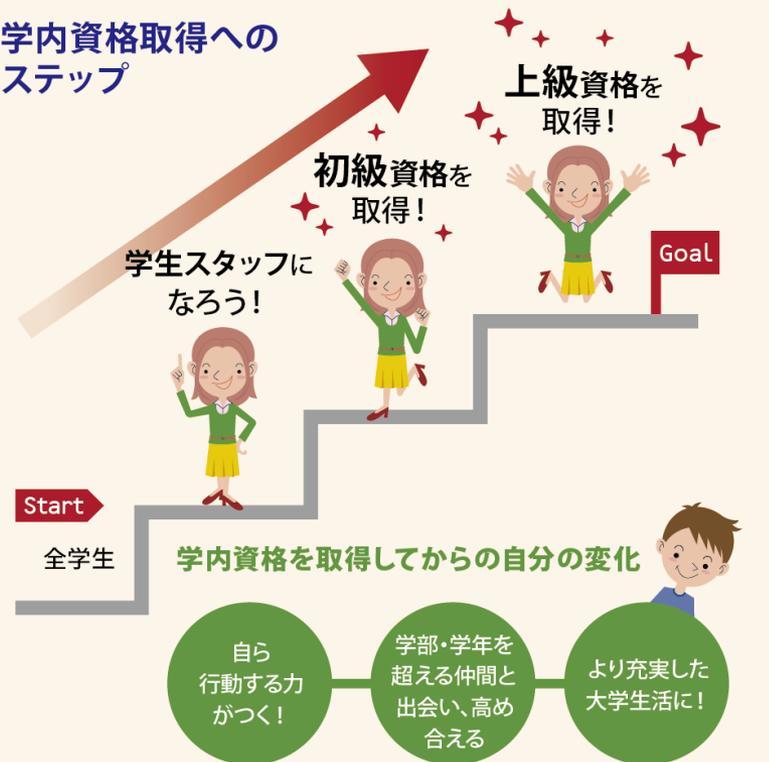
他の学生スタッフ同士が間近に接する機会を作り、お互いにフィードバックし合いながら、互いを高めあう仕組みづくり

# 学生の相互補助活動を取りまとめるプロジェクト

学内資格制度を構築し、取得者には、学長名による証明書を授与  
→ 履歴書等への記載を促す

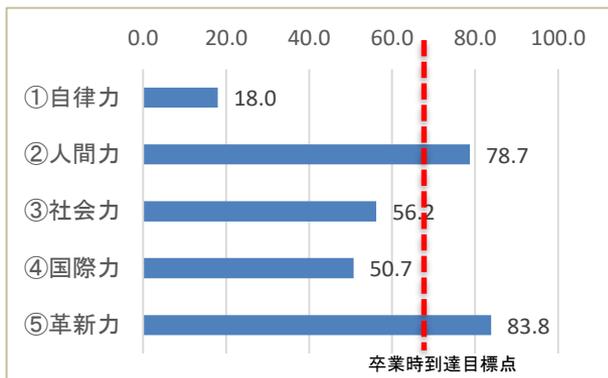


学内資格取得へのステップ



## ○教学 I R による各学生の学びの可視化

<入学時の考動力>

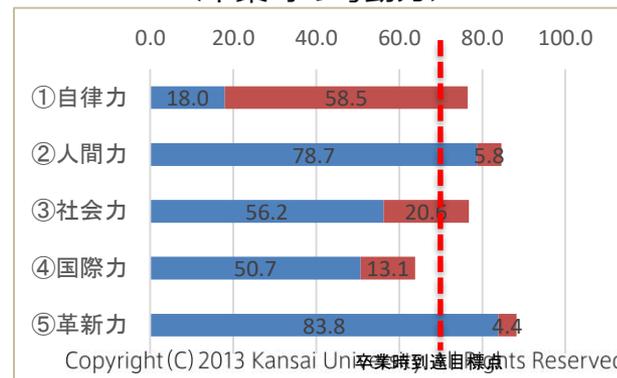


20XX年  
○○学部入学  
20XX年  
卒業見込のA君

教学IRによる調査

正課・準正課教育 P・正課外を通じた成長度を毎年測定  
※いつ、どこで、何が、どれだけ伸びたのか

<卒業時の考動力>



- 1 Introduction
- 2 内部質保証と教学IR
- 3 教学IRを活用したアクション
- 4 教育のグランドデザイン
- 5 **まとめにかえて**





## 教学IRプロジェクト

関西大学 Kansai University Institutional Research Project

- 教学IRプロジェクトが始動して5年が経過
- 学部執行部、各部局と“学び”を中心に密な連携
- 内部質保証システムのチェック機能だけではなく、改善を含めた具体的な提案が視野に入っていることが一要因
- それが出来たのも、教育推進部長のもとに教学IRが位置づけられ、同じメンバーが立場を変えて支援を行う環境がある
- 職員も同じで、立場を変えて支援を行う
- その目の前には常に学生がいる



- ・意思決定に寄与してこそその教学IR
- ・意思決定までの議論が活性化するデータの提供、数式・分析手法よりも効果ある改善策やヒントを提供
- ・情報公開だけではなく、コミュニケーションが促進する“FACT BOOK”の作成
- ・明治大学さん、一緒にベンチマークしませんか？  
もちろん、両大学内限定で…。



ありがとうございました

ytk@jm.kansai-u.ac.jp



# まとめにかえて

	関西大	明治大
IR	教学IR	The IR
対象	ミドル	マクロ
調査	学生調査	既存データ
設置	教育推進担当下	学長直下
メンバー	教職協働	職中心
専任教員	あり	なし
部局	学事局 = 教務	教学企画部
環境	学生がいる	学長がいる
データベース	構築にむけて	あり
ファクトブック	作成中	あり

